

平成29年度第2回滋賀県総合教育会議の結果について

会議次第

平成29年7月25日（火）
13:30～15:30
滋賀県大津合同庁舎7C会議室

議題

- 子どもたちの学びをつなぐ取組について
- ・学年間の学びの接続と教科間連携
 - ・校種間の系統だった接続

本年度は年間を通じて子どもたちの個性やその多様性に寄り添う教育について様々な観点から議論していくことを第1回会議にて確認されました。その内容を踏まえ、第2回会議では「子どもたちの学びをつないでいくために何ができるのか」という観点から、前半に学年間の学びの接続と教科間の連携、後半に校種間の系統だった接続について意見交換を行いました。

1. 学年間の学びの接続と教科間連携

事務局から学年間の接続や教科間連携の現状を説明した後、学校現場での取組について滋賀大学教職大学院 村田 耕一准教授、畑 稔彦准教授より説明をいただき、意見交換を行いました。

主な意見等

- ・なぜ学年間・教科間の連携が必要か。算数・数学の問題を解く場合、問題文を読み、理解する力が求められ、国語をはじめ他の科目の力も身につける必要があり、総合的な力が必要になる。
- ・例えば「環境」を学ぶとき、小学校は学級担任制であり先生自身が授業を工夫されるが、中学校・高校は教科担任制のため、どの教科で教えるか調整が必要になる。内容により、社会だけの一教科のみでなく理科等の複数の教科との連携も必要になる。
- ・今後は、いろいろな知識を働かせて考える課題解決型の学習が求められ、次期学習指導要領で示されているカリキュラムマネジメント（教科横断的な授業の促進）による授業づくりが重要になる。

2. 校種間の系統だった接続

校種間の系統だった接続の状況について事務局から説明した後、県立守山中学・高等学校 吉澤 加寿子 校長より公立学校における取組、近江兄弟社高等学校 藤澤 俊樹 校長より私立学校における取組を提供いただき、意見交換を行いました。

主な意見等

- ・小中高と進む中で、次の学校で何を学ぶのか見越し、あるいは前の学校で何を学んできたのかを踏まえるなど、校種間を超えた全体の見通しを立てることが大切である。
- ・学校が変わるということは環境が変わるということ。その場面で不適応が起こる可能性もあるが、新しい人間関係等により子どもたち自身が伸びる時期でもある。今後は、そこをサポートできるような連携や支援が必要になってくる。
- ・多様化している幼児期の学びの芽生えを、学びの基礎段階である小学校につないでいくことが重要である。小学校から中学校、中学校から高校の接続についても、地域・公私を超えて考えていく必要がある。

第2回滋賀県総合教育会議

甲西高校書道部のみなさんに横断幕と出席者のネームプレートを書いていただきました。

